



「教えること」と「学ぶこと」

「教育とは、前世代による後世代への作用の一切をいう。」「子どもは、教師や親が教えようとしなかったところで学ぶものである。」(福田恒存『教育・その本質』)

今日の教育が科学的、意図的、組織的に推進される中で、はっとさせられる言葉です。

過日、かつての教え子から就職が決まったからとのことで連絡があり、会食を共にする機会がありました。小学校時代の彼は、おとなしい印象でしたが、性格は温厚、素直で好感のもてる少年でした。その彼と私との接点は、たった週3時間の専科の授業を通してのみでしたが、今でも親しく交流があります。

当時は授業の合間に自分が好きだったビートルズやモダンジャズの話を通して、おとなしかった彼との心の交流を持ったことから(授業の内容はともかく)、彼はそれに興味を持ち、やがて吹奏楽で全国大会に出場したり、ビートルズの曲の歌詞の和訳に関心を向けたりするようになったとのことです。そして今回、そのビートルズの生地、英国の大学院を修了して帰国し、晴れて海外の音楽情報誌などの翻訳の仕事に就いたとのことです。

私にとっては肝心の授業の中味ではない事柄を通してその子の成長に関わっていたという事実から何とも複雑な心境ですが、素直に喜ばしいことではあります。

ところで自分の学生時代を振り返ってみても、確かに「あの先生の授業はすばらしかった。」とか「あの時の授業でこんなことが勉強になった。」という先生の印象はあまりなく、むしろ、「あの先生はいつも大きな声を張り上げていた。」とか「自分と同じサッカーが好きで、よく試合の話をしてくれた。」といったことが心に残っていますし、メンター的な役割を担うことも大切と感じます。

学校教育の目的の第一は授業を通しての人格形成にあると考えますが、そこでは授業での単なる知識の伝達ということではなく、教師が授業などを通して何を伝えていか、また、教師の姿や指導観、感性、子どもへの内的なかかわり方といったものにあると考えます。だとすると、「指導力」を含む教師としての「在り方」などといったものも、教師としてきわめて重要なファクターとなることを私たちは肝に銘じておく必要があるようです。

そこで思い出した言葉があります。

『…教師は教え授けるが、しかし、自分が教え授けることとは別のものを授ける。教師による最も崇高な教育は、彼が語ることの中ではなく、語らないことの中にある。』 …自戒を込めて。

【ゾルジュ・ギュストルフ著『何のための教師』
小倉志祥・高橋勝訳(みすず書房)P164】

「教師自身もコーピングでストレスの軽減を！」

ストレス反応を和らげるための行動を「コーピング」といいます。コーピングには深呼吸やストレッチ等があります。



「子ども健康教育相談」から

例年、年度始めは不適応関係の相談が多く寄せられます。

4月と5月を合わせた相談件数の43%が、登校しぶりや不登校に関わる相談となりました。

特に、朝の出がけの際に繰り返される家庭内の葛藤によって、子どもが不安定になっていることを感じます。

子どもによっては、親からのプレッシャーをまともに受け、感情コントロールが効かずに反発したり、頑なになったりもします。

親になだめすかされる幼児期からの経験は自己統制力に繋がります。



子どもたちの心のケアについて

= 復興に向けての被災地小学校の取り組みから =

【「学校の力を強化する」実践】

～ 校内組織の役割確認と機能的な連携の推進～

<教務部>

○ 自己存在感や心のつながりを体感できる行事の工夫

<研究部>

○ 心のサポート研修、各教科の特性を活かした授業研究

<生徒指導部>

○ 学級経営の工夫、児童会活動や行事の工夫

<保健安全部>

○ 防災教育による学校生活の不安除去、自己健康管理

<総務部>

○ 学校の生活環境整備、PTA・地域との連携

【「子どもたちの心に希望と力を持たせる」工夫の実践】

～各分掌の取り組みの調整・統合～

○ 「わかる」「できる」「もっとやってみたいと感じる」授業を毎時間展開すること。そのための研究を充実させること。

○ 各教科の特性を活かした授業で心をサポートすること。

○ 子どもたちの心の変化を見逃さないようにし、保護者と連絡を密にすること。

○ 目標を持たせ、前向きにチャレンジさせること。(あいさつ運動、スポーツフェスティバルなど)

○ 取り組みにくい行事を可能にするために工夫を重ねること。

○ 専門家によるカウンセリングを活用すること。

【日常生活・災害ストレスマネジメント教育、教師とカウンセラーのためのガイドブック】富永良喜・竹中晃二著書(サンライフ企画)P89